凡友

第62号 大阪産業大学校友会報

OSAKA SANGYO UNIVERSITY

産学官連携の拠点

新産業研究開発センター 中央キャンパスに

竣工

次期会長・副会長選出される

（任期H14.4.1〜H17.3.31）

本年3月31日の任期満了に伴い、次期役員選出が会則に則り行われています。

●次期会長に光岡明弘氏（現副会長）

次期会長の選出は1月19日の幹事会で行われ、池田会長から推薦された光岡副会長が、満場一致で選出されました。

●次期副会長8名選出

次期副会長の選出は2月9日の幹事会で行われました。光岡次期会長から推薦された8名が、満場一致で選出されました。

中山幸蔵、美内照男、梅木俊郎、山本明、加門和彦、西博行、高見新一、福井義員の各氏です。

●幹事・代議員他の選出について

幹事の選出は2月23日に立候補を告示し、3月15日に締め切り、3月23日の幹事会で選出されます。候補者の資格条件は校友会本部役員および本部役員経験者であることです。

代議員の選出は、2月23日に立候補を告示し、4月10日に締め切り、4月13日の幹事会で選出されます。詳細は右ページに掲載しています。

相談役・顧問・参与・会計監事の選出は、4月13日の幹事会で行われます。（新役員全員の紹介は秋号に掲載します。）

次期会長

光岡明弘氏（56歳）
S20年10月31日生　S40交短自
S43機械
S50年1月代議員
S52年1月幹事
S58年4月副会長
（株）光岡製作所代表取締役

次期副会長

中山幸蔵氏（55歳）
S22年2月3日生
S43交機
（株）ビルメンテナンスサービス代表取締役

美内照男氏（54歳）
S22年6月14日生
S44機械
てるてる商事代表者

梅木俊郎氏（53歳）
S24年1月25日生
S43短自
綾機サービス代表者

山本明氏（51歳）
S25年11月1日生
S48経営
海南市役所課長補佐

加門和彦氏（48歳）
S28年5月12日生
S50経営
大阪産業大学学長事務室担当課長

西博行氏（48歳）
S28年6月10日生
S50交機
大阪産業大学入試センター課長

高見新一氏（46歳）
S30年3月24日生
S51土木
大阪産業大学工学部助手

福井義員氏（46歳）
S30年12月23日生
S52土木
大阪産業大学工学部講師

第48回 代議員会報告

平成13年11月11日（日）10時より「ザ・リッツ・カールトン大阪」にて、第48回代議員会が開催されました。

代議員会は年2回開催される本会の最高議決機関です。会長・副会長・幹事・代議員及び支部長の構成メンバー149名のうち、全国から104名が出席されました。

司会は幹事の今村彰隆氏（S55交機）。初めに池田会長の挨拶があり、代議員会の新メンバーとなられた大学支部の笹本由文支部長（S47交機Ⅱ）、滋賀県支部の田中善昭支部長（S45経営）、大阪北河内支部の津曲逸雄支部長（S49交機Ⅱ）、長崎県支部の平尾武次支部長（S47交機）の紹介がありました。

議長には幹事の力石卓朗氏（S49機械）、副議長に代議員の梅原一男氏（S43機械Ⅱ）が選ばれました。

議事は1平成12年度事業報告（福井副会長）、2校友会設立30周年記念事業報告（美内副会長）、3平成12年度会計報告（光岡副会長）、4同会計監査報告（金丸会計監事）でした。決算内容は前号（61号）に掲載しています。これに対して出席者から活発な質問や提言があり、執行部は誠意をもって答弁し、一同の拍手をもって承認されました。

CONTENTS

- 次期会長・副会長選出…… 2〜3
  [第48回代議員会報告、新代議員候補の受付、平成13年度総会パーティ 平成14年度一般会計予算、校友会活動報告]
- 校友の活躍ぶり拝見 …… 4〜5
- 学園便り! …… 6〜7
- 産学官連携への取り組みについて、エクステンションセンターのお知らせ …… 8
- 大学紹介（情報システム工学科） …… 9
- 支部レポート …… 10〜11
- 先生お元気ですか! …… 12
- 校友のひろば、私たちがんばりました …… 13〜14
- お知らせのページ …… 15

新代議員候補の受付

新しく本部役員として校友会活動に積極的に参加できる代議員候補を会則に則って募っています。代議員会は本会の最高議決機関です。幅広い多様な人材を募集します。

■募集要項

1.立候補者は3名以上の会員の推薦が必要です。
2.提出書面は校友会事務局の書式書面に限ります。（事務局に問い合わせて下さい）
3.書面提出締切日平成14年4月10日（水）必着。

選出は上記の書面をもとに、幹事会において下記事項などを考慮して行われます。
（1）卒業年度や学部学科等に片寄りのないようにする。（2）全国の地域に片寄りのないようにする。（3）定員は100名以内とする。

平成13年度総会パーティ 340名の参加で盛り上がる

平成13年度総会パーティは、11月11日（日）12時より大阪駅に近い人気の高級ホテル「ザ・リッツ・カールトン大阪」で開催されました。

会場内には全国の支部旗が掲げられました。また舞台には、鏡開きのため特別に作られた新潟産こも樽酒「凡友」が飾られ、校友会の強い絆と発展を強く印象づけられました。

司会はお馴染みの笑福亭三喬さん（S57交機）。ところが当日彼は風邪のため声が出ず、急遽ピンチヒッターで兄弟弟子の笑福亭遊喬さんに変更となりました。三喬さんは落語の次に得意としている、めでたい席にふさわしい「獅子舞」を披露してくれました。

パーティは池田会長の平成12年度事業報告を兼ねた挨拶で始まり、来賓を代表して、学園の古谷理事長、大学の天野学長の祝辞がありました。続いて会長、理事長、学長により、樽酒「凡友」（新潟県代議員・関根繁之氏（S43機械）による手配）の鏡開きが行われ、いよいよ開宴。校友会顧問の林大行先輩（S27交短運）が「母校での職員時代に校友会を立ち上げた思い出と、今日の発展ぶりを慶ぶ」との言葉とともに乾杯の音頭をとられました。

会場は、当初の予定を上回る参加者が集まり大盛況で、あちらこちらで恩師・旧友との再会に、学生時代の思い出話や近況報告、家族の紹介など、いやがうえにも会話は盛り上がります。

そして宴もたけなわのところで、10月21日に設立された滋賀県支部の田中善昭支部長（S45経営）をはじめ支部役員が紹介されて登壇、池田会長から支部旗が贈呈されました。宴も終盤に入り、光岡副会長の抽選により、恒例の福引大会が行われました。全国の支部特産品は人気を集め、当選者が出るたびに会場からは歓声が上がっていました。話もつきない楽しい宴もやがて終了時刻を迎え、中山副会長の発声による万歳三唱をもってお開きとなりました。

平成14年度一般会計予算（自H14.4.1～至H15.3.31）

●一般会計

収入の部	一般管理費	事業費			（単位:千円）
	総務部	運営部	編集部	支部推進部	合計
前期繰越金					
校友会費	90,000				90,000
会費収入	45	1,100			1,145
雑収入	20	200			220
合計	90,065	1,300	0	0	91,365

支出の部	一般管理費	事業費			（単位:千円）
	総務部	運営部	編集部	支部推進部	合計
会議費	3,000	3,470	580	1,680	8,730
総会費		6,600			6,600
通信費	2,700	120		30	2,850
印刷費	242	320		150	712
会報費			18,510		18,510
備品費	200				200
旅費交通費	1,355	3,190	600	3,020	8,165
慶弔費	1,530				1,530
消耗品費	500				500
会員名簿費			5,304		5,304
記念品費		6,200		210	6,410
助成費		3,000		7,174	10,174
広報費				100	100
人件費	2,400				2,400
雑費	500	250	50	50	850
賃借費	720				720
福利費	180				180
引越費	0				0
小計	13,327	23,150	25,044	12,414	73,935
予備費	3,430				3,430
合計	16,757	23,150	25,044	12,414	77,365
特別会計へ繰入	14,000				14,000
総合計	30,757	23,150	25,044	12,414	91,365

●特別会計（財政安定化基金）

収入の部	（単位:円）	支出の部	
平成12年度繰越金	299,282,354		0
平成13年度繰入金（12年度一般会計剰余金）	15,324,861		
平成13年度繰入金（13年度一般会計資金より）	20,000,000		
平成13年度繰入金（13年度30周年記念事業費繰入金）	6,470,668		
平成13年度受取利息（見込み）	1,300,000		
平成14年度繰入金（13年度一般会計剰余金見込み）	10,000,000		
平成14年度繰入金（14年度一般会計予算案より）	14,000,000		
平成14年度受取利息（見込み）	900,000		
計	367,277,883	計	0

平成15年3月31日現在残高（予定） 367,277,883

平成14年2月23日　第49回代議員会で承認されました。

校友会活動報告

（H13.9.21～H14.2.10）

●平成13年

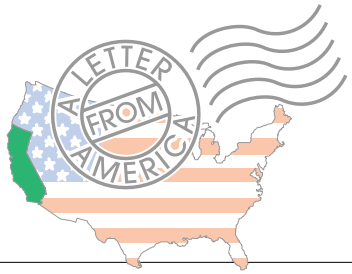
9月 21日（金）編集部会（校友会事務室）
22日（土）将来事業検討委員会（校友会事務室）
10月 2日（火）運営部会（校友会事務室）
4日（木）編集部会（校友会事務室）
13日（土）将来事業検討委員会（校友会事務室）
13日（土）幹事会（大学16号館会議室）
21日（日）滋賀県支部設立総会（大津プリンスホテル）
11月11日（日）第48回代議員会（ザ・リッツ・カールトン大阪）
11日（日）平成13年度総会・パーティ（ザ・リッツ・カールトン大阪）
17日（土）韓国総同門会総会（ザ・リッツ・カールトンソウル）
17日（土）鹿児島県支部総会（鹿児島東急イン）
12月 1日（土）将来事業検討委員会（校友会事務室）
2日（日）兵庫県但馬支部総会（ホテル金波楼）
3日（月）編集部会（校友会事務室）
8日（土）幹事会（南海サウスタワーホテル）

●平成14年

1月 19日（土）将来事業検討委員会（梅田サテライト）
19日（土）幹事会（梅田サテライト）
26日（土）大学支部総会（ツイン21東天紅）
2月 2日（土）神戸市支部総会（ホテルグランドビスタ神戸）
9日（土）幹事会（大学16号館会議室）

校友の活躍拝

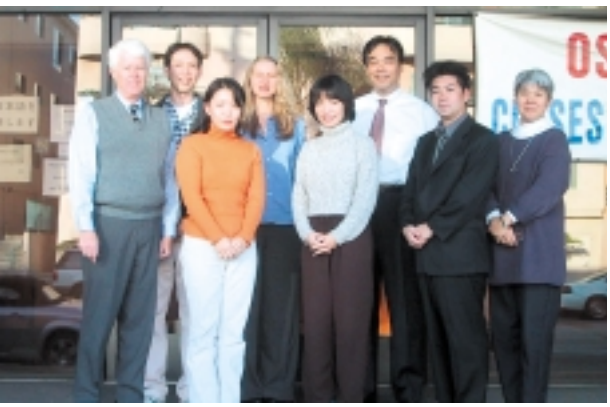
2001年9月11日。同時多発テロ勃発。そのときOSULAは……



中島　理宏さん（S51経営）

MICHIHIRO NAKASHIMA

**大阪産業大学の海外教育施設として、
アメリカ、ロサンゼルス市に開設された「OSULA」。
いつもはカリフォルニアの陽光が降り注ぐ、穏やかなこの地。
しかし、9月11日、世界中を驚愕させた同時多発テロ事件が起こった。
社長の中島さんからこの日の出来事、その後のアメリカの緊急レポートが届いた。**



現地スタッフの人たちと

2001年9月11日、出勤前の慌ただしい時間帯に突然流れてきた衝撃的な飛行機事故のニュース。私はさして気にも止めず、娘を学校に送るため慌てて家を飛び出していた。途上、車内のラジオから、しきりに今朝の飛行機事故のニュースを伝える声が聞こえていた。一体何が起こったのか。何かとんでもない事件であることには違いないが、それが何であるかを理解するまでには暫く時間がかかった。

その日は朝から大阪産業大学研修グループのディズニーランド観光の予定であった。学生達も朝のテレビニュースで既にこの同時多発テロの事件を知っており、衝撃的な映像に誰もが驚愕し、恐怖心を抱いていたが、予定通りバスに乗りこみディズニーランドに向かった。約1時間後、ディズニーランドを目前につけっぱなしにしていた車内ラジオから、ロサンゼルスの全てのアミューズメントパークは閉鎖とのニュースが流れてきた。すぐさま代替地を検討したが、やはり人が集まる場所は何処も危険を伴うということで、おとなしくOSULAに引き返し、その日は自由行動日に切り替えた。学生達もさすが大人である。誰もがこの状況を良く理解し、実に素直に引率の先生の指示に従ってくれた。かくして、世界を震撼（しんかん）させた歴史的なその日は混乱の内に過ぎていき、同時に多くの人達は、今後の更なる混乱に一抹の不安を覚えていた。

その後、ブッシュ大統領の「これは戦争だ」の言葉から始まり、アフガニスタン空爆、炭素菌テロ、タリバン政権崩壊へと続いていった。この間アメリカ国内では、アメリカ国旗が飛ぶように売れ、家々の軒先や車にはアメリカ国旗が掲げられた。テロ撲滅、アルカイダの殲滅（せんめつ）、タリバン政権の崩壊、オサマ・ビンラディンの逮捕を合言葉に、一丸となってこの破壊的状況から立ちあがっていった。その一方で、経済情勢は確実に悪化の一途をたどり、ここロサンゼルスでも、特に外国人を相手にビジネスをしている旅行社等の観光業界は壊滅的状況に陥り、リトル東京周辺からもすっかり観光客の姿が消えてしまった。OSULAにおいても例外でなく、テロ事件以降全ての研修がキャンセルとなり、大きな被害をこうむってしまった。

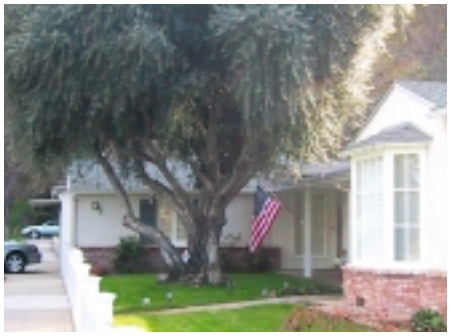
今回の同時多発テロ事件は、テロという残虐非道な行為が、今やあらゆる場所で、しかも全くの日常生活の中でさえ、いとも簡単に起きてしまうということを世界に知らしめた事件であった。また同時に根深い中東問題、インド・パキスタン問題、テロ根絶の難しさを改めて考えさせられた事件でもあった。

「War is not the answer（戦争は答えではない）」というメッセージが書かれたビラが、ニューヨークの公園に貼ってあったそうです。戦争では根本的な問題が何も解決出来ないということは、多くのアメリカ人が知っています。

今回の事件で直接的、あるいは間接的に被害にあった全ての企業・個人の方々が、一日も早く立ち直り、皆が手を取り合い、2002年が本当に平和で、再び活気のあるアメリカ、ロサンゼルスに戻ることを心から願って止みません。

皆様の暖かいご支援を切にお願い申し上げる次第であります。

OSULA　中島　理宏



一般家庭に掲げられたアメリカ国旗

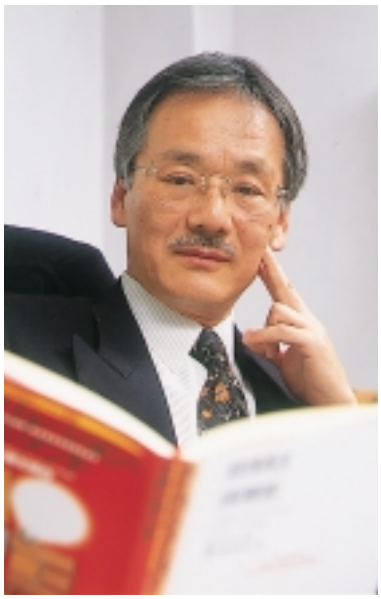
ぶり見

起業家と大学院生。ふたつの顔を愉しむ、充実の日々

野邑　豊さん（S43経営）

YUTAKA NOMURA

サラリーマンから一念発起、まったくの未経験から広告業界に参入し、経営者の道を志したのは今から30年前のこと。現在は、セールスプロモーション（SP）会社と系列事業を経営するかたわら、大阪産業大学の大学院生でもある野邑さん。その充実の日々にスポットを当ててみました。



野邑さんが大学進学を志したのは、なんと高校3年生の冬のこと。すでに就職先が決まっていた野邑さんは、高校生活最後の夏休みを利用して、これまで集めていた記念切手を売って得たわずかながらの資金を持って、東北へ一人旅に出かけました。そこで出会った大学生たちとの心の交流が、野邑さんの進路を変えることになったのです。「彼らから、いろんな話を聞くうちに、大学生もおもしろそうだなと思ったんです」。そんな折り、たまたま新聞広告で大阪交通大学（現大阪産業大学）の入試を知り、未知の学術分野に興味をそそられた野邑さんは、受験を決意、見事一期生として入学を果たしたのです。「当時の私は、赤貧洗うがごとしの学生でしたから、授業料が一度に納められないこともしばしば。藤野先生はじめ学生課の人たちには、いろんな面で助けてもらいました」。学生と先生とのふれあいが、まだほのぼのとしていた草創期の本学で、野邑さんのキャンパスライフは、学業とアルバイトの両立、そして山岳部と新聞会の活動もこなすなど、まさに八面六臂（はちめんろっぴ）の忙しさだったようです。

大学卒業後は、新聞社の販売店の経営相談センターに入所。社会保険労務や経理の指導員として活躍されていました。「23、4歳で先生と呼ばれる。でもそれは自分の実力ではなく、名刺の肩書きがそうさせているだけ。このままでは一生ダメになる」と思い、昭和47年6月、独立。まったく畑違いのSP会社をたった一人で設立されました。「資本や専門知識がなくても、てっとり早くできる仕事だと思ったんです（笑）」。営業をしながら印刷のことなどを勉強し、今では、販売促進のための印刷物の企画制作を運営する株式会社毎日綜合広告、印刷物を配送する毎日オリコミセンターなど、多岐に渡る事業を展開。社員総数90名、うち2名の校友会メンバーが頑張っています。さらに10年前には自社ビルを建築されました。また、一昨年からは社会人大学院生として、大阪産業大学流通学研究科修士課程流通システム専攻で、マーケティング論を学ぶ一方、中国からの留学生とも親交を深め、彼らと合弁会社を設立。着実にビジネスのフィールドを拡げておられます。

「大学で勉強するのが一番安くつく趣味。知識も増え、友だちも増えたのはプラスアルファの喜びです」という野邑さん。さまざまな人生経験を積んできたからこそ、大学の存在価値を改めて感じているのでしょう。

最後に野邑さんから若い校友会メンバーに頂いたメッセージは、「できないことをしようとするのは、自らのミスマッチ。高望みせず、できることを頑張ってやって、プロになれ」とのこと。低迷する景気状況のなかで果敢にビジネスを展開し、年齢を重ねても、勉学心を忘れない野邑さんの力強いコメントは、これからも興味のあることに、どんどん邁進したいと思う、ご自身へのエールとも重なりました。

株式会社　毎日綜合広告
〒590-0041
大阪府堺市陵西通3-24（毎綜ビル）
TEL:072-221-6860
FAX:072-223-8668

学園便り！
GAKUEN DAYORI.

3大学と海外交流協定締結

天津理工学院
雲南財経大学
ホーチミン市国家大学社会科学人文大学

本学は、9月18日、中国・天津理工学院にて同院と学生の交流や学術交流を進めるための協定を締結した。

協定書の署名調印には、本学の古谷七五三次理事長と、李軍院長が臨んだ。また、通訳として教養部の藤原康晴教授が活躍した。

調印の後、曹作良副院長や呉建華国際交流處長らに施設の案内や大学の概要説明を受けた。この度の協定締結は、井沢久昭客員教授の紹介を機縁に実らせることができた。

天津理工学院は1981年創立。10学部、20学科を擁し、科学、工学、経営学などに重点をおいている。教員数約2,000人。学生総数9,000人余り（うち、留学生200人）。アメリカやドイツ、シンガポールといった各国の大学と協定関係を結んでいる。

また、翌19日には、中国・雲南財経大学と教育提携協定書に調印した。教員、学生、大学関係者の交流や学術情報の交換、共同研究を進めていく。同大学は創立50周年を翌日に控えていたが、調印式には姚大金学長をはじめ副学長5人が出席するなど、華々しく執り行われた。

中国駐大阪領事館の朱洪涛氏が一昨年12月に本学を表敬訪問。朱氏は、中国大学学長日本大学視察研修団の本学視察に当たり尽力された。このことが今回の同大学50周年記念式典参列と協定締結に至った機縁となった。

雲南財経大学は1951年創立。経済学部、財政金融学部、コンピューター科学学部など16学部、19専攻学科を有している。教職員数1,000人弱。学部生と大学院生を合わせて約5,300人。アメリカやオーストラリアの大学と提携して、国際商工学部や電子商務クラスを設けている。

さらに12月5日、ベトナム・ホーチミン市国家大学社会科学人文大学と、短期留学生の受け入れ、教員の交流に関する交流協定書に調印した。

ベトナムホーチミン市国家大学とは、傘下の工科大学、経済大学（2001年2月分離独立）に次ぐ3大学目の協定締結となった。

ホーチミン市国家大学は1995年にホーチミン市に点在した9大学が統合され、現在では再編独立した形になっている。社会科学人文大学は文学言語ジャーナリズム学科、ロシア語学文学科、フランス語学文学科などの9学科と、体育学などの2セクションを有している。

韓国・国立HANBAT大学と国際産学交流シンポジウム開く

日韓初の企業参加型交流会に政財界関係者が出席
日本企業が本学を高く評価　本年は本学で開催

▲テレビや新聞も報道したシンポジウム

本学と韓国国立HANBAT大学は、学術（インキュベータ）基本協定に基づき、9月14日韓国大田市のリビエラホテルで初の国際産学交流（協力）シンポジウムを開催した。

後援は韓国産業資源部をはじめ中小企業庁、大田市、大田商工会議所が務めた。

日本からの参加者は、大阪府内の企業より日本遠隔制御（株）の今村博昭常務取締役、（株）OSUテクノロジーの前川佳徳取締役（本学工学部教授）、OGIベンチャーキャピタ（株）の宮里重雄社長、共同総合サービス（株）の岸本隆吉社長ら4人と本学から中山常務理事（団長）、西村産研所長、羽室経営学部助教授、武内産研次長の総勢8人。

企業を交えた国際産学交流シンポジウムの開催は初めてということもあり、政府関係者や地元産業界、インキュベータ、大学、新技術展関係者、報道関係者ら約150人が参加した。

開会挨拶に続き、政府機関代表の中小企業庁長による基調講演の後、両大学の研究所長（本学は西村産研所長）から大学紹介と産学交流の取り組み状況が説明された。

研究発表は大学と企業から各2件の計4件が行われ、羽室助教授は「企業のためのデータマーケティング支援」、前川教授は「地域発展のためのIT技術支援とグローバル市場におけるマッチング」のテーマでそれぞれ講演発表した。両国の企業関係者からは、事業化を見据えた活発な質疑が行われた。また、このシンポジウムの様子は地元テレビ局をはじめ多くの新聞により報道された。

この後一行はHANBAT大学の「中小企業技術移転センター」の開所式に出席した。

つぎに、大田市庁舎を表敬訪問し、経済科学局の責任者からは、今回の国際産学交流は両国の経済活性化や学術交流につながるとの賛辞を寄せて頂いた。また、大田市はサッカー・ワールドカップの開催都市であり、これを契機に関西との経済交流を進展させたいという協力要請もあった。

日本企業の参加者は、本学の教育方針や産学交流を高く評価すると共に、教員の優れた研究業績をはじめベンチャー育成の熱意にも感銘を受けた様子で、今後は本学のよき理解者として支援したいとの言葉を頂いた。

▲新技術展示ブースを視察する参加者

大学発ベンチャーの勧め

支援セミナーで産・学が報告
甘くはないが、チャンスは今

多くのベンチャー企業を大学から世に送り出そうと「創業・ベンチャー支援セミナー」が12月17日（月）、16号館で開かれた。学生自身によるベンチャー起業の活動報告のほか、成功した起業家やベンチャー支援アドバイザーらの講演があった。主催したのは近畿経済産業局、産業研究所、中小企業・ベンチャー総合支援センター近畿の3者。テーマは「大学発ベンチャーの勧め」。

活動を報告した学内ベンチャーは2社。「（有）オーエスユー・デジタルメディアファクトリー」は、新人アーティストを発掘して音楽CDを製作・販売する会社。創業半年を待たず数枚のCDを市場に送り出している。経済学部の高増明教授のゼミ生が中心となり、デジタルエコノミーの研究を事業へと発展させた。社長をつとめる大学院生の山崎功詔さんは「大学生の感性とネットワークを生かして、さらに新人を発掘し、メジャーデビューを目指す。ライブハウスやコミュニティFM局もできれば2年以内につくりたい。教育用デジタルコンテンツの製作もすでに始めている」と意欲的。

一方「（株）オーエスユー・テクノロジー」は、最新のコンピュータ技術を応用して商品開発やコンサルティングなどを行う会社。紙に印刷したものよりもはるかに判りやすいCGアニメによるデジタル取扱説明書の製作も手がける。工学部情報システム工学科の設計・生産システム研究室（前川佳徳教授）の学生が設立した。4回生で社長の大橋江利架さんら取締役たちは「共同で研究開発するなど地域の企業と密接に連携して事業を進めたい。学生だから安くというのではなく、学生の持つ高度技術をビジネスに生かしていただけたら……」と話した。

両者の資本金は300万円と1,000万円。学生自身や担当教授のほか、大学や企業も出資した。資金を提供するだけでなく、施設・設備の使用を認めるなど学生によるベンチャー起業を大学は全面的にバックアップしている。

次いで経営コンサルティングなどを通じて企業をバックアップする「中小企業・ベンチャー総合支援センター近畿」の河田正興チーフアドバイザーが講演し、「今は第3次ベンチャーブーム。明治維新・第二次大戦に次ぐ大きな転換点といえる。新しいビジネスを始める大きなチャンスだ。金がなければ知恵を出す。協力者がいなければ相談に出向く。そうした柔軟な頭脳と行動力、そして事業経営の基本ルールを持つことが必要だ。後は自己啓発と意欲でベンチャーを成功に導ける」とアドバイスした。

そのほか経営学部の若林直樹教授が社内ベンチャーの実例について講演。専門セクションをつくって新規事業を生み出した体験を、自ら勤務した松下電器産業（株）を例に紹介した。

セミナーではまた、地元・東大阪を代表するベンチャー企業「ニッショー機器」の寺内一秀社長が基調講演。勤務先の倒産を機に起業し、レーザー応用の測量機器を開発して新ビジネスをつくりだした経過を披露した。「困った時に乗り越えようとがんばったからアイデアが出た。そのアイデアを生かす場がベンチャー企業だ。ものづくりには無限の可能性がある。不便と感じるところをどうしたら便利になるのか工夫すればいい。知恵を傾けることが会社を大きくすることにつながる」と起業を呼びかけた。

人間環境学部開設記念フォーラム

「人は環境とどう向き合うのか」

2001年春にスタートした人間環境学部の開設記念フォーラムが12月16日、16号館で開かれた。21世紀最大の課題とも言われる「環境」とこれからどう向き合っていくのか同学部の教員が話し合った。またABCテレビ「探偵！ナイトスクープ」で知られるタレントの立原啓裕さんが闘病体験をもとに「人間環境にもっとコミュニケーションを」と語った。

第一部のシンポジウムでは、学部長の中野廣教授がまず「人間主役の考え方で来た結果、いろいろな問題が出てきた。生物平等という考え方に基づいて拡大の技術から縮小の技術へ、グローバルな経済から地域の経済へとシフトする必要がある。大学教育も、領域進化から全貌把握へと変わるべきだ」と提言した。次いで、同学部を構成する2学科の教員が発言。文化環境学科の河合徳治教授が「世界人口が今世紀半ばには93億人になる。これだけの人々が生きられる環境をどうつくるかが大切な問題。一人ひとりの欲望の集合が自然を食いつぶす構造になっている。見直す時期にきた私たちと、生き方についてこの学科で共に考えよう」と述べた。

一方、都市環境学科の金澤成保教授は「ものは豊かになっているが、日本では社会不安が大きくなっている。科学技術への過信もある。自然や文化から人間が切り離されてしまい、自分の町だと思えないような環境づくりをしてきたのではないか。豊かな未来をつくるために、これまでの考え方を超える努力をしたい」と語った。

司会を務めた花田眞理子助教授は「環境は先祖からの贈り物ではなく、子孫からの借り物。分離融合型のこの学部を見守り育ててほしい」と話した。

立原啓裕さんと対談

第二部は、過密スケジュールから体調をくずしたものの病気を克服した経験のある立原さんが医師でもある中川晶助教授と対談。

「車を運転中にぶったおれ救急病院へ。年中無休のうえ、睡眠時間は2時間半という生活を続け、過換気症候群になっていた。週16本あったレギュラー番組をすべて断り、治療に2カ月専念して復帰できた。この体験を生かして医療と患者をつなぐ役割を果たしたい」と体験を語った。

さらに、「いろんなことを感じ、そしてなぜそう感じたのかを考え、それを誰かに伝える。すると何かが返ってくる。その循環がコミュニケーション。情緒力を磨いてくれるコミュニケーションをもっと大切にしよう。そのためにも、役割や立場を超えて誰もが本音を語り合える『座』の復活を」と呼びかけた。会場の参加者からは「この大東市にその『座』をつくろう」と応える声があがった。

産学官連携への取り組みについて

低迷を続ける日本経済において、新しいビジネスの発見と創造が切実な課題となってきています。そのような中で、本学では産学官連携の気運が高まっています。

そこで大学としては、「創造力豊かで経済社会のニーズに応える人材育成」の教育方針のもと、地元大阪をはじめとする企業、商工団体や行政との交流を図り、受託・共同研究、技術・経営相談、講師派遣、ビジネスインキュベーションプログラムなどにおける産学官連携について、積極的に取り組んでいます。（下図「受託・共同研究等の受け入れ図」を参照下さい。）

また、現在大学中央キャンパス北側には、産学官連携の拠点となる「新産業研究開発センター」の建設を進めています。

本センターでは、文部科学省よりハイテク・リサーチ・センター事業（私立大学学術研究高度化推進事業）の選定を受けて「新産業創生指向材料の開発と生産に関する研究」プロジェクトを実施します。さらに、同プロジェクトテーマを具現化するために、産学官との受託・共同研究、ベンチャー企業の支援・育成等を行なう共同研究室や、教員、学生、産業界の方々との情報交換の場（「大阪産大インキュベータClub（仮称）」を設立予定）としての産学交流会議室なども備えた施設となっています。

校友会員の皆様におかれましては、受託・共同研究や新産業創出などに関心をお持ちの方（企業）がおられましたら、本学産業研究所までお気軽にお問合わせ下さい。また、本学における産学連携への取り組みへの、より一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

（大阪産業大学産業研究所）

受託・共同研究等の受け入れ

このほかに大学として、研修員（特定教員のもとで研究するため民間企業、公的機関等から派遣する制度）、研究生（特定の専門分野について研究するため6ヶ月または1年間入学する制度）、科目等履修生（科目の単位認定）等の受け入れも行っています。

※各教員の研究課題につきましては、産業研究所ホームページ（http://www.cnt.osaka-sandai.ac.jp/sanken/）をご高覧下さい。

技術者に関する最も権威ある資格「技術士」に挑戦しましょう!

「技術士補」講座開講のお知らせ

技術系各分野における技術力を証明する「技術士・技術士補」の資格取得に挑戦してみませんか。これはわが国最高ランクに位置するライセンスであり、世界に通用する資格です。

エクステンションセンターでは、「技術士」への第1ステップとなる「技術士第1次」試験を受験するための講座を昨年度から開講しております。今年度は昨年度の実績を踏まえ、工学部の卒業生および大学院生を対象に、専門科目に的を絞った実践的な講座を企画しております。ぜひ、当講座を利用して、合格の栄冠を勝ち取ってください。

◇開講期間:5月11日（土）～9月28日（土）
土曜日の午前に開講
◇開講部門: ①機械部門 ②建設部門
③電気・電子部門 ④情報工学部門
◇実施場所:大阪産業大学
◇受講費用:50,000円
（教材費別、消費税込み）
◇申込締切:4月22日（月）
エクステンションセンター必着
◇第一次試験日:10月上旬の日曜日

（当講座受講生の受験申込みはエクステンションセンターで行います。）

■技術士試験とは?

第一次と第二次があります。第一次試験は「技術士補」になるための試験でだれでも受験できます。第二次試験は「技術士」になるための試験で「技術士補」として技術士を補助した期間が4年超の人が受験できます。

※受講希望者は大阪産業大学エクステンションセンターまでご一報ください。
申込書と受講料振込用紙をお送りいたします。**連絡先 Tel:072-875-5999**

「ガス溶接技能講習補講の無事修了」のお知らせ

大阪労働局の要望に基づくガス溶接技能講習の補講が皆様方のご協力により無事修了しました。1,200人以上の方にご参加いただき、大阪労働局の講習修了確認を得ることができました。

大学紹介

■シリーズその5 情報システム工学科

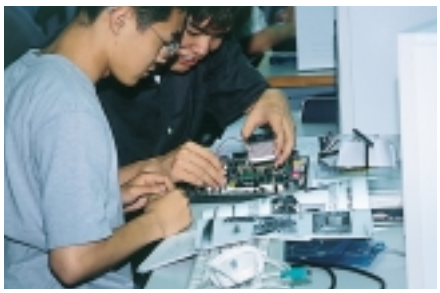
21世紀はIT革命の世紀だと言われています。ITとはインフォメーション・テクノロジー（情報技術）。コンピュータとネットワークの普及により、高度情報化社会が実現しようとしています。情報システム工学科では、IT分野で活躍できる人材の育成を目的として、幅広い分野にわたって教育研究の指導を行っています。

情報システム工学科の教育内容と特長

情報システム工学科では、コンピュータのソフトウェアとハードウェアを基礎として、オフィスや生産現場などの情報システム工学分野で利用されているさまざまなシステムに関する知識を学習します。

情報システム工学の技術者には、文系と理系を統合化した能力を有する人材が求められています。そこで情報システム工学科では、文理融合型の学科を目指しています。従来の理系入試に加えて文系入試（文系科目のみの受験で入学可能）を実施し、文系出身の学生でも情報システム工学の基礎をしっかり学ぶことができるカリキュラムを導入しています。

コンピュータリテラシー（コンピュータを活用する能力）やプログラミング能力を習得し、情報技術を活用できるようになるためには、コンピュータの利用経験が重要です。情報システム工学科では学科独自のプログラミング演習室を充実させ、学生に実験や演習で実際にコンピュータを利用する機会を与えています。



また授業の空き時間にプログラミング演習室のコンピュータを学生に開放し、いつでも利用できるようにしており、より実力をつけることを奨励しています。

IT関連の知識・技術は非常に幅広い分野にわたっています。情報システム工学科のカリキュラムでは、豊富な授業科目を準備するとともに、「計算機科学」「画像工学」「情報通信ネットワーク」「システム制御」「生産システム」「物質情報」「サイバースペース」の7つの履修モデルコースを設定しています。モデルコースを参考にして授業科目を履修することにより、知識を体系的に身につけることができます。

大学院情報システム工学専攻

大学で4年間勉強した後、さらに詳しくITについて学ぶために大学院に進学する道があります。通常、情報システム工学科からは2年間の博士前期課程（情報システム工学専攻）に進学します。さらにその後3年間、博士後期課程（生産システム工学専攻）で学び専門的研究者を目指すこともできます。

大学院では、次世代計算機技術、情報デバイス、通信技術、種々の場面での画像処理、生産システムにおける知能化、システムの設計と評価などに対応するため、各分野にわたるカリキュラム体系と研究体制が組織されています。それぞれ専門分野での研究テーマを通して、高度かつ密度の高い研究指導が行われます。

情報システム工学科カリキュラムチャート

計算機科学／画像工学／情報通信ネットワーク／システム制御／生産システム／物質情報／サイバースペース

基礎科目

線形代数学Ⅰ（1年） 線形代数学Ⅱ（1年） 微分積分学Ⅰ（1年） 微分積分学Ⅱ（1年） 数学演習Ⅰ（1年） 数学演習Ⅱ（1年）
物理学Ⅰ（1年） 物理学Ⅱ（1年） 物理学実験（1年） 無機化学（1年） 有機化学（1年） 物理化学（2年） 化学実験（1年）

専門基礎科目

情報システム工学概論（情報社会・倫理を含む）（1年） 情報基礎数学（1年） 技術表現法（1年） 電子計算機Ⅰ（1年）
電子計算機Ⅱ（1年） プログラミングⅠ（1年） プログラミングⅡ（1年） 計算機言語（2年） 情報基礎演習（1年）
情報活用演習（1年） プログラミング演習Ⅰ（2年） プログラミング演習Ⅱ（2年） 情報システム工学実験および演習Ⅰ（2年）
情報システム工学実験および演習Ⅱ（2年） 情報システム工学実験および演習Ⅲ（3年） 情報システム工学実験および演習Ⅳ（3年）

専門科目

オートマトン理論（2年） アルゴリズム理論（2年） 記号論理学（2年） 計算機アーキテクチャ（2年） オペレーティングシステム（2年）
ハードウェア設計Ⅰ（3年） ハードウェア設計Ⅱ（3年） プログラム言語論（3年） ソフトウェア設計（3年） 関数・論理プログラミング（3年）
知識情報処理（3年） ヒューマンインタフェース（3年） 情報機器Ⅰ（3年） 情報機器Ⅱ（3年） データーベース工学（3年） 図形科学（2年）
回路と波動（1年） 複素数とベクトル（1年） 統計学（2年） 確率論（2年） フーリエ解析（2年） ラプラス・Z変換（2年）
コンピュータグラフィックスⅠ（2年） コンピュータグラフィックスⅡ（2年） 信号処理（3年） 画像工学Ⅰ（3年） 画像工学Ⅱ（3年）
サイバースペース工学（3年） 応用人工知能（2年） 情報理論Ⅰ（2年） 情報理論Ⅱ（2年） 情報通信システム（3年）
情報ネットワークⅠ（3年） 情報ネットワークⅡ（3年） OAシステム（3年） FAシステム（3年） 制御工学Ⅰ（3年） 制御工学Ⅱ（3年）
システム工学（2年） 論理回路（2年） 数値解析（3年） 計算科学（3年） 物質情報学（3年） 生体情報工学Ⅰ（3年） 生体情報工学Ⅱ（3年）
生体情報処理（2年） 情報光学（3年） 電子物性（3年） 情報システム特論A（知的所有権を含む）（3年） 情報システム特論B（3年）

教員スタッフ 2002.2現在

●教授

近江和生〔工学博士〕
応用人工知能、OAシステム、FAシステム

日下浩次〔工学博士〕
情報理論Ⅱ、情報ネットワークⅠ・Ⅱ

酒井章吾〔工学博士〕
アルゴリズム理論、物質情報学、計算科学

杉村明彦〔工学博士〕
論理回路、電子物性、情報光学

高松忍〔工学博士〕
オートマトン理論、記号論理学、
プログラム言語論

能勢和夫〔工学博士〕
制御工学Ⅰ・Ⅱ、システム工学

樋口清伯〔工学博士〕
統計学、数値解析、情報理論Ⅰ

藤井信夫〔工学博士〕
複素数とベクトル、フーリエ解析、確率論

前川佳徳〔工学博士〕
コンピュータグラフィックスⅠ・Ⅱ、
サイバースペース工学

丸谷洋二〔工学博士〕
オペレーティングシステム、図形科学、
信号処理、画像工学Ⅰ・Ⅱ

●助教授

高根慎也〔博士（工学）〕
計算機言語、プログラミングⅠ・Ⅱ

松本恵治〔博士（工学）〕
情報基礎数学、回路と波動、
情報通信システム

●講師

大垣斉
関数・論理プログラミング、
計算機アーキテクチャ、ラプラス・Z変換

紙谷卓之
ハードウェア設計Ⅰ、電子計算機Ⅰ・Ⅱ、
情報システム特論A

小板隆浩〔博士（工学）〕
生体情報工学Ⅱ

後藤彰彦〔博士（工学）〕
情報機器Ⅰ・Ⅱ、生体情報処理

中村孝
情報システム工学概論、技術表現法、
ヒューマンインタフェース

平松綾子〔博士（工学）〕
ソフトウェア設計、知識情報処理、
データベース工学

支部レポート Report

滋　賀　県　支　部

10/21(日) 支部設立総会 大津プリンスホテルにて開催

記念すべき21世紀の初年、近畿でたったひとつ支部のない県、滋賀に、去る10月21日、設立総会を開催、全ての議案に対してご承認を頂き、滋賀県全域を滋賀県支部（支部長：田中善昭（S45経営）、会員数1,778名）として発足させることができたことは、大変光栄なことであります。

学園からは古谷七五三次理事長、中山英明常務理事、天野光三学長のご臨席と、校友会本部からは池田義隆会長、光岡明弘・高見新一・福井義員各副会長、福田泰事務長はじめ大阪泉州支部・愛媛県支部・大阪市支部・福井県支部および京都市支部の役員のご出席をいただきました。

支部結成にあたっては、有志諸氏15名余りによる準備委員会を結成しました。また、本部や近隣支部からの多大なる協力を得ることができ、琵琶湖を有する滋賀県特有の地形から、支部運営の為にはどのように役員を配置すれば良いのか協議を重ねた結果、7ブロックに分割して、役員（支部長・副支部長・幹事・会計・地区幹事）を配置することに致しました。

今後は、支部会員各位との連絡を密にし、滋賀県支部の役員として、支部会員のニーズに沿った活動をしたいと考えておりますので、今後ともご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い致します。

（副支部長　柴原延行）

大　分　県　支　部

9/14(金) 別府市サンバリーアネックスにて開催

大阪より副会長の高見さんと代議員の清水さんを迎え、総勢15名でしたが、今回も新たな校友が参加してくれたことが開催する役員にとって励みとなりました。今回は支部長が改選されて初めての総会でもありました。

二次会は岩田さんのワンマンショーで、歌あり、マジックありと会場を盛り上げてくれました。

大分県支部にとっても、今後の新会員の獲得が大きな問題になっています。役員だけでは獲得できません。会員名簿を全員に配布して、周囲に沢山の校友がいることを知ってもらい、新たな校友が参加しやすいよう、今後努力が必要です。

（支部長　小畑京治）

埼　玉　県　支　部

9/16(日) 秩父長瀞にて開催

全国の校友会会員の皆さんお元気ですか。今年も埼玉県支部では、第7回支部総会を兼ねた親睦会が行われました。今回は埼玉県内秩父長瀞にて、ぶどう狩りとバーベキューサイトを囲み楽しく親睦を深め、今後の支部活動についても活発な意見が提起されました。（埼玉県支部にもホームページを作ろう、というのもそのうちのひとつです。）

また、総会については毎回、校友会会員にお手紙を送り、参加の有無と近況報告を伺っていますが、なかなか皆さんもお忙しいのか、残念にも参加率は横這いです。

総会ではやらなければならない議題（会計報告・監査報告・役員改選等）が了承され、車中の総会も終わりに近づいた頃、バーベキューサイトに到着。会員で準備をしました。お酒とお肉で空腹を満たした心地よさを身に感じ、ひとときと森林浴に浸りながら、静かに自分を見つめ直す時間を持つことができました。

実はこの日、長瀞ライン下りと埼玉県自然史博物館を見学する予定でしたが、台風18号の影響で川が荒れ、桟橋が流失し、ライン下りは欠航、博物館は休館。急遽ぶどう狩りに変更となりました。今年のテーマの「川」は楽しむことが出来ませんでしたが、参加者全員の親交を深めることが出来ました。

また、今回の企画は前回同様、校友会会員の竹本朗さん（S53土木）のご尽力でした。

これから新しく埼玉県支部に来られる校友の皆様、既に支部内に来られている皆様、是非一度支部総会に参加してみませんか。楽しいこと受けあいです。必ずストレス解消になりますよ。家族揃って、来てみて下さい。

第8回支部総会も楽しい企画で実施する予定です。

（支部長　鈴木菊男）

鹿　児　島　県　支　部

11/17(土) ホテル東急インにて開催

今回の第14回支部総会は会員の出席が6名と少なかったのですが、来賓として、校友会より加門副会長、福田事務長、長崎県支部長の平尾氏の3名のご臨席を賜りました。

来賓の挨拶では、大学や校友会の現状と将来像について説明がなされました。議事に入り会計の有馬氏（S44交機Ⅱ）より活動報告、会計報告があり、全会一致で承認されました。役員改選も、来年15周年を迎えることや山本副支部長（S48機工）の転勤との兼ね合いもあり、全員留任となりました。最後に来年の設立15周年記念総会を盛大に開会できるよう、各地区毎に、会員への呼びかけをしようと決議しました。

懇親会は、平尾長崎県支部長の乾杯音頭で始まり、和気あいあいの雰囲気の中で酒を交わし、再会を誓って別れました。また総会に先立ち、高牧カントリークラブで、すばらしい天気の下ゴルフを楽しみました。支部会員の皆様、是非一度ご参加下さい。

（支部長　赤崎一弘）

韓国総同門会

11/17(土) ソウル市リッツカールトンホテルにて開催

アンニョンハセヨ!　韓国総同門会（韓国支部正式名）設立から1年半が過ぎ、今回第2回の総会を開催することになりました。来賓としては学園事務局長の中山常務、国際交流担当の磨家次長、校友会本部の中山副会長、吉田代議員をお迎えし、会員30名が参加しまして、活動、会計報告、会則改正について論議を終え、懇親会に移りました。

中山常務挨拶による母校の発展と充実ぶりには驚かされました。当日特別ゲストとして姉妹校であるYEOJOO大学の林先生も臨席されまして、母校への編入留学試験についてお互いの協力の場を設けました。（現在まで10名在籍、平成14年度は8名が編入試験合格）また、関西大学、近畿大学、大阪芸大の韓国同門代表も出席し、留学時代の懐かしい話で、まるでその時に逆戻りしたように皆さんの楽しい時間は続けられました。

韓国支部の卒業者（短大含む）は約90名ですが、連絡可能者は50名程度です。まだまだ会員の調査を行う段階で、100%の会員参加を目標に頑張る次第でございます。

日本の各支部と違い、日本に居住している会員と韓国ソウル以外の釜山、済州等の全国各地に居住している会員もいる為、なかなか全員参加は無理かと思われますが、会員の皆様の心の中でのご支援をお願い致します。今後とも、韓国総同門会がますます発展できますよう、なお一層の努力を致します。

校友会の皆様方のご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。

（同門会会長　玄雄鍾）

兵庫県但馬支部

12/2(日) 日和山海岸ホテル金波楼にて開催

校友会本部より、福井副会長、嶌﨑幹事ご両名の出席を頂き、会員17名が第4回総会に参加致しました。師走の忙しい時期にも関わらず、前回より2名増えたこと、初めての参加者が3名おられたことなど嬉しい総会となりました。

総会の後の懇親会では、出席者の自己紹介が大変な盛り上がりとなり、平成12年度の暗いニュースも吹き飛ばしてしまう程でした。その後会場を近くの円山川に浮かぶ屋形船に移し、ゆったりとした川面の遊覧を楽しみました。日常の忙しい日々を、ふっと忘れさせるひとときではなかったかと思われます。

今後の校友会活動については、会員の皆さんが、地域、職業、年齢を超えたつき合いができればと考えております。支部ができて丸4年を経た今、私の周りでも、仕事上のおつき合いをしていた多くの方々の中に、校友会の会員の方がおられ、親交が更に増した例が数多く見受けられます。総会に欠席された方々には、総会資料をお届けすることを検討し、校友会の環を更に広く、強くつないでいけたらと考えております。

次回は朝来郡地区での開催を予定しております。更にたくさんの会員の皆様の参加をお待ちしております。　（支部長　岸本隆男）

大学支部

1/26(土) 「総会・新年懇談会」東天紅ツイン21にて開催

今回はセンター試験と一般前期試験に挟まれた非常に忙しい中、大阪ビジネスパーク「ツイン21ビル」38階、景色抜群の部屋で開催しました。入試の地方試験準備で参加できなかった会員も数人いました。

「総会」には、来賓として池田会長、光岡副会長、美内副会長、事務局福田氏にご参加頂きました。

25名の会員出席（委任状42名、総会員数95名）のもと、支部長挨拶と池田会長ご挨拶で開始しました。議長・書記には前役員の兎澤氏と嶌﨑氏が選出され、事業報告・会計報告・その他の議題が順次承認されました。また、会員からは親睦行事を色々と企画して欲しいとの要望がありました。

総会終了後、「新年懇親会」に入り、来賓の古谷理事長、天野学長、池田会長とご挨拶を頂いた後、中山常務の音頭で乾杯し、和やかな懇親会に入りました。

普段、お互いに学内にいながらも、なかなかゆっくりと話す機会が無いようで、各自歓談に大変盛り上がっていました。今回の懇親会には余興を企画していませんでしたが、話が弾んで予定の2時間は瞬く間に過ぎ、総会、新年懇親会ともに無事終了しました。

今後も、他支部との交流を積極的に進めて行きたいと思いますが、交流も宴会だけでは無く、家族参加で楽しめるイベントを企画した方が良いのではないかと思っています。

今年もよろしく、お願い致します。

（支部長　笹本由文）

北河内支部より
ゴルフコンペお知らせ

北河内支部では、支部総会及び支部活動に、いろいろな分野から一人でも多く関心を持って参加してもらいたいと、支部会員有志により、総会以外にもいろいろな催しを行っています。

他支部とのソフトボール大会、クラブOB主催のハイキング、ファミリー参加の野外バーベキュー、親睦ゴルフ等、それぞれ楽しく行っていますので、是非一度ご参加下さい。

ゴルフの方は日曜日、祝日に行っています。足腰の衰えを防ぐべくボールを追いかけ、日頃の運動不足とストレスをコミュニケーションで解消しています。

次回第3回ゴルフコンペは、4月21日に三重で行います。現在は3組ほどの予定です。賞品は期待できませんが、参加費も安く、会の規約もゆるく、メンバーのレベルも高くないです!!

和気あいあい校友会の親睦に是非参加して、そして支部活動に参加をよろしくお願い致します。

【連絡先】裏表紙記載の事務局まで

（北河内支部長　津曲逸雄）

先生お元気ですか！

坂本　勇先生 プロフィール

1935年2月10日生（67歳）
交野市藤ケ尾4丁目13-12　在住

昭和41年4月、大阪産業大学工学部機械系学科の専任講師として赴任。昭和48年に教授。昭和51～55年度に産業研究所長を、昭和55～56年度、61～64年度、平成2～3年度に工学部長を務める。

1. 産大の思い出

私が大阪交通大学に着任したのは、1966年4月、交通機械工学科の設立時でした。当時の本学は、学舎はもちろん施設設備も整っておらず、蔵書もほとんどない状態。文部省が認可していてもこんな環境ではだめだと思った私は、早急に必要なものを列記した要望書を作成し、理事会に提出しました。文部省の抜き打ち検査では、この要望書が功を奏し、難を逃れられました。

また学生募集のため、初代学長の横山武人先生とふたりで、初刊号の学校案内を持って各地の高校を回ったことも、今では懐かしい思い出です。

それから35歳の時に教務部長に就任し、その後、産研所長を2期、さらに工学部長を4期歴任するなど部長として14年間、産大の発展を見続けてきました。教授になった時から私は、大学を一人前にするには

1）20年したら教え子から教授をつくること
2）学科と大学院を新設すること

この2点を目標に掲げてきました。工学部長時代には初志貫徹し、大学院と環境デザイン学科、情報システム学科を設立。さらに馬込教授や桜井教授など多数の卒研生が現在、産大で頑張っているほか、博士号を取得した者もいます。加えて200名以上の教え子が、高校教諭の道を歩んでいます。

特に、高校の自動車学科の教諭になるには、自動車2級整備士の免許が必要なのですが、大学でこの免許が取得できるのは全国でも本学と、もう1校だけと限られています。そのため自動車学科を運営するには、産大の卒業生が必要不可欠という、非常にうれしい状況になっています。

2. ロボット競技会について

交通機械工学科を語るうえで欠かせないのは、やはりロボット競技会のことでしょう。これは、本学を特色のある大学にしようと思ったことがきっかけで、1995年に初優勝して以来、ほとんど入賞しています。

昨年も、日本機械学会の100周年を記念した「ロボフェスタ神奈川2001」では、ろうそくの火を用いたスターリングエンジンを動力にしてつくったお化け屋敷を出展。この「地獄めぐり」という作品で、オモシロからくり賞部門賞と、総合で特別賞を受賞しました。

3. 教え子へのメッセージ

自分に負荷を与え、課題を背負って歩く。これは私自身のモットーですが、教え子にも押し並べて、そうであって欲しいと思います。私は現在、最低でも月に1回全国で講演をし、海外で行われる国際会議にも積極的に参加しています。例えばそこでどんな講演をしようか、毎回自分に課題をつくることが、私の栄養素になっているのです。そして、「打ち込むこと」です。そうすることで、見えないことも見えてきます。

私の好きな言葉に「お城に入ると庶民を忘れる」という諺があります。これは、ものをつくる人間にとって、肝に命じておかなければいけないことです。

つまり産業とは、正直でなければいけない。何故なら人々は、私たちを信じ、私たちがつくったものを信用しているからです。だからこそ、正義の心を持って人の気持ちに応えていって欲しいですね。

4. 今後について

機能的かつ人間の資源でもある「手のよさ」が忘れられつつあるなかで、私は今、「手」の研究に力を注いでいます。

そもそも私は金属材料学・力学が専門でしたが、機械工学がコンピュータへ偏っている時代のなかで、「手」でつくることが本来の機械工学であるということと、身体の不自由な人のために何かつくりたいという思いから、「手」の研究をはじめたのです。

授業でも学生に、ヤスリ1本でからくり人形をつくらせたり、レポートも手書きで提出させるなど、「手づくりのよさ」と大事さを日頃から唱えています。

また昨今ますます深刻化している「子どもの不器用さ」を回復させるため、教育委員会との連係により、小学生を対象に、オリジナルのナイフを使って鉛筆を削り、正しく使うことの日常化に取り組んでいます。

さらに、これからは、健康な大人が基準ではなく、子ども（特に乳幼児）を大切にしたものづくりが重要だと思います。言い換えれば、社会的弱者の立場に立つことで、機械や設計、ものの使いやすさも、もっと考えていかなければいけなくなるはずです。

まずは、身体の不自由な方のために何か役に立つものをつくること。それが、今後の私の課題です。

校友のひろば

松本研究室同窓会開催

中上雅晴（S49機械）

平成13年12月8日、石川県金沢市の石川厚生年金会館において松本研究室（機械材料）の2回目の同窓会を開催しました。

前回平成10年11月開催時は、松本教授はじめ9名の参加者でしたが、今回は研究室、学部の壁を取り払い、13名の方に声をかけましたところ、全員が賛同してくれ準備を進めましたが、秋岡君、國澤君、高都持君、平脇君の4名はどうしても都合がつかず、欠席しました。

加賀百万石の美酒に酔いしれながら、タイムスリップし（スリップしすぎたかも？）学生時代に戻り、楽しいひとときを過ごし、参加者全員が、明日へのパワーをもらったようでした。

翌日は、有志で兼六園を見学し、日本海の幸を購入し、次回の再会（岡山の予定）を誓って、金沢駅で散会しました。

最後にご多忙の中、ご参加いただいた松本教授ご夫妻や、東は東京、西は岡山から参加していただいたメンバーの皆さん、心より感謝申し上げます。

参加者　合計12名

松本教授夫妻
【機械】内山、小林、坂梨、澤田、
田中幸一、田中俊彦、納谷、松本、中上
【経営】上出

私たち、がんばりました

本学初のドラフト指名

オリックスが7巡目に

硬式野球部・山本投手

硬式野球部の山本拓司（経済学科4年）投手が、11月19日、東京新高輪プリンスホテルで行われた第37回ドラフト会議（新人選手選択会議）で、オリックスブルーウェーブから7巡目に指名を受けた。プロ野球ドラフト会議で本学の選手が指名されたのは、今回の山本投手が初めて。

山本投手は「ドラフトでの指名を大変光栄に思っています。野球部の仲間がいたからこそ私もここまで頑張れたと感謝しています。プロ野球選手として通用する肩と体力づくりに1年かけたいと思います。そして2年目には1軍に上がり、まず1勝を目指します。それから勝ち星を積み上げ、二桁勝利を期待される選手になれるよう努力するつもりです。球団からは『中継ぎでの起用』と聞いています。パ・リーグの左の強打者、特に大阪近鉄のローズ選手との対戦を楽しみにしています。硬式野球部の監督をはじめ、関係者の方々に感謝を申し上げます」と指名を受けた喜びを語った。

また、11月27日、オリックスブルーウェーブの小林晋哉・編成副部長ら4人が古谷理事長に山本投手の指名挨拶に訪れた。

古谷理事長は「イチロー選手など多くの有名選手を育てた実績ある球団ですから、色々な誘惑もあると思いますが、厳しく指導して頂いて、早く1軍で活躍してくれることを期待します」と述べた。

写真提供＝読売新聞社

第1回　エコカードライビングコンテスト

自動車部が総合3位に輝く

ダートトライアルも3位入賞

11月12、13の両日、兵庫県中町のセントラルサーキットで「第1回日本エコカードライビングコンテスト」が開催され、自動車部が総合3位となりGSカップを受賞した。

この催しは全日本学生自動車連盟設立50周年の記念大会。地球環境への負担軽減啓発として、広く「環境配慮型運転技術」を普及させることを目的に、全国22大学の対抗戦で競われた。

競技はプリウス部門とミラ部門の課題車輌で、サーキット1周を制限周回時間以内に30周回し低燃費を競う。

12日のプリウス部門では、75ポイントを獲得し3位につけた。翌13日のミラ部門では、55ポイントを獲得。総合130ポイントを獲得し3位に入賞した。

また、10月21日、第2回全関西学生ダートトライアル選手権大会が河内長野市プラザ阪下で行われ、団体男子の部で3位入賞、個人男子の部では井坂俊介選手が5位となった。

●主なクラブの戦績

バドミントン部

男子（4部）・女子（5部）残留

9/30～10/19、関西学生バドミントン秋季リーグが男女それぞれ行われた。男子（4部6校）は、4勝1敗で1位となり3部昇格への入れ替え戦に出場したものの、惜しくも敗れ4部残留となった。女子（5部6校）も、3勝2敗で3位となり5部残留であった。

男子ラクロス部

2部残留

第12回関西学生ラクロスリーグ戦（2部Bブロック9校）が8/19より行われた。本年は1部昇格を狙える力があったものの、僅差の戦いに敗れ、6戦2敗の成績で3位に終わり、2位までの入れ替え戦出場はかなわなかった。

準硬式野球部

山下選手、ベストナイン

西都六大学秋季リーグ戦（7校）が行われ、5勝5敗2分の成績ながら5位に終わった。ベストナインに外野手部門で山下純一選手が選ばれた。

ハンドボール部

4部残留

関西学生ハンドボール秋季リーグ戦（4部7校）が行われた。1勝4敗1分の成績で5位に終わり、4部残留となった。

硬式庭球部

秋のトーナメントでは

9/27～10/10、関西学生チャレンジトーナメントが行われた。シングルスでは三宅慶太郎選手が6Rまで進んだ。ダブルスでは四宮禎治選手・出口峻司選手組が5Rまで進んだ。また、10/27～11/4に行われた関西学生テニストーナメントでは、シングルスの四宮選手が3Rまで、ダブルスの佐藤大行選手・下村孝之選手組が4Rまで進出した。

チアリーディングチーム

見ごたえある演技

関西学生アメリカンフットボールリーグのサイドライン応援、阪神大学野球秋季リーグ戦のスタンド応援、阪駒祭、体育祭、野崎文化祭で素晴らしい演技を披露。また、第32回全国高等学校アメリカンフットボール選手権大会決勝（12/23、クリスマスボウル）でも見事な応援が実り、附属高校の3連覇に華を添えた。

少林寺拳法部

2つの大会で優勝者

9/23、2001年大阪府民体育大会が行われ、単独演武、一般初・二段の部で塩見太孝選手が優勝した。また、10/8に行われた2001少林寺拳法関西学生新人大会でも、自由組演武男子初段の部で東谷卓也選手・河津圭一選手組が優勝した。

全国大会、2組が決勝進出

11/3・4、第35回少林寺拳法全日本学生大会が行われ、男子単独演武で、森田英士選手が決勝進出（ベスト12）した。また、男子段外の部で浅田博之選手・黒崎純平選手組も決勝進出（ベスト12）を果たした。

陸上競技部

初のシード獲得

第63回関西学生対抗駅伝競走大会が11/8に丹後半島コースで行われた。大阪での予選会を2位で通過した陸上競技部が14位の成績を収め、長年の目標であった15位までに与えられるシード権を初めて獲得した。

硬式野球部

阪神大学野球秋季リーグ2位

2001年阪神大学野球秋季リーグが行われた。優勝校（大体大）と同じ勝ち点4（8勝5敗）ながら勝率で下回り2位となった。敢闘賞に岡正大選手、ベストナインに捕手の後藤剛選手、外野手の藁科恭平選手、秦定政選手が選ばれた。

ラグビー部

天理大を破るも…

関西大学ラグビーBリーグ戦（10校）が、9/23より行われた。リーグ戦では、Aグループに昇格した天理大を破り、素晴らしい試合であったが、5勝4敗の成績で5位に終わった。

女子ラクロス部

3部残留

第12回関西学生ラクロスリーグ戦（3部Aブロック6校）が8/11より行われた。リーグ戦では最後に阪大（2部昇格）に僅差で敗れ、4勝1敗の成績ながら2位に終わり、入れ替え戦出場はかなわなかった。

卓球部

3部残留ならず

関西学生秋季リーグ戦（3部12校）が、10/27～11/11に行われた。リーグ戦では、初戦に勝ったものの、1勝4敗の成績に終わり、3部の最下位決定戦にも敗れ12位となった。4部との入れ替え戦にも敗れ、降格となった。

跆拳道部

全日本学生3位

10/7、第3回全日本学生テコンドー選手権大会が行われ、男子バンタム級で垣見幸緒主将が3位入賞を果たした。また11/23に「TAEKWONDO CROSSING GAME 3RD STAGE」が行われ、CHAMPION CLASS/一般の部、男子62kgで垣見選手、68kgで有井崇選手が優勝した。

サイクリング部

シリーズ最終戦

JCF・MTBジャパンシリーズ最終第10戦が9/21・22に行われた。スポーツクラスでは、鎌田浩選手がトップと9分53秒90差の走りで26位であった。また、一般男子では奥本選手が8位であった。

合気道部

中村選手、3位入賞

第8回杖道全国大会が、11/18に行われ、中村隆男選手が3位入賞を果たした。また京産大との団体戦でも、井路側高志選手が勝利するなどの活躍を見せた。

日本拳法部

全国大会出場へ

全日本拳法総合選手権大会予選でブロック優勝した栗田裕也選手が、9/16に本大会に出場したが、惜しくも1回戦で敗退した。

日本拳法部、団体3位入賞

日本拳法ジャパンオープンが、11/11に行われた。準々決勝まで勝ち上がり、準決勝では2勝2敗1分ながら、惜しくも代表者戦に敗れたが、団体3位入賞の好成績を収めた。

剣道部

関西大会3位で、全国大会（3年ぶり）へ

9/15、第49回関西学生剣道大会が行われ、ベスト4に進出した。準決勝で敗れたが3位となり、3年ぶりの全国大会への出場を決めた。10/14の第49回全日本学生剣道優勝大会では、1回戦で勝利したものの、2回戦で惜しくも敗れた。

バスケットボール部

関西リーグ4位で、念願のインカレ初出場

平成13年度関西バスケットボール秋季リーグ戦が行われ、予選リーグを3位（8勝3敗）で勝ち上がった。最終順位は4位（8勝6敗）となったが、第53回全日本学生バスケットボール選手権大会へ「初出場」を決めた。しかし11/26、1回戦で惜しくも敗れた。

スキー競技部

中山選手、3位入賞

11/4、第11回全関西学生サマージャンプ大会が行われ、中山晋治選手が、スペシャルジャンプ競技で3位入賞を果たした。

ライフル射撃部

上位ならず

9/12より秋季全関西学生ライフル射撃選手権大会が行われた。ARS60競技では団体9位、個人では上辻麻王選手が40位（548点）、ARP60では竹原成祐選手が15位（577点）であった。また10/30からは第48回全日本学生ライフル射撃選手権大会が行われたが、好成績は収められなかった。

山岳部

秋山合宿登山

10/7・8、秋山合宿登山を大峰山で行った。8時に京橋駅集合。その後天川川合に向かい、狼平でキャンプ。翌日は八経ヶ岳登頂を経て下山した。登山合宿を終えて「チームワーク良く行動できたが、各員の体力にバラツキを感じた。今後対処していきたい」とのこと。

バレーボール部

健闘及ばず

関西大学バレーボール秋季リーグ戦（2部）が行われた。1勝3敗の苦しいスタートながら後半は4勝を飾るなど素晴らしい試合で盛り返したが、前半の成績がひびき最終的には3位に終わった。12月の全日本バレーボール大学選手権大会ではグループ戦で勝ち上がったものの、トーナメント初戦で敗れた。

弓道部

男子（2部）・女子（4部）、共に残留

9/23より男女の秋季リーグ戦がそれぞれ行われた。男子（2部Bブロック5校）は、1勝3敗で4位となり、2部残留を決めた。女子（4部Aブロック5校）は、1勝3敗の4位で4部残留となった。

サッカー部

得点に結びつかず

9/8～10/28、関西学生サッカーリーグ（2部Bブロック10校）が行われた。リーグ戦では再三のシュートもゴールポストに嫌われ得点が入らず、攻めながらも勝ちにつながらずに引き分けた試合が多かった。最終的には、2勝3敗4分の5位でシーズンを終えた。

空手道部

1部残留

9/23、第44回全関西大学空手道選手権大会が行われた。1回戦に敗れたものの、1部リーグ残留を決めた。また、11/23に行われた第45回全日本大学空手道選手権大会では、1回戦で準優勝した日大と対戦し、敗れた。

アメリカンフットボール部

Div.I 残留へ

関西学生アメリカンフットボールリーグ（Div.I 8校）が、9/2～11/25に行われた。オープニングゲームの関学大戦には、第2Qに1TDを奪い返すなどのプレーもみられた。シリーズは0勝7敗の成績で8位に終わり、12/8に京産大と入れ替え戦を行った。試合は第4Qに1TDを奪って突き放し、その後の反撃を絶ち勝利した。

柔道部

野口選手、全国大会出場

9/2、正力松太郎杯予選・第20回関西学生柔道体重別選手権大会が行われた。66kg以下級で野口誠一選手が6位になり、全国大会への出場権を得た。10/6の全国大会では、2回戦から出場したが、石川選手（東北学院大）に敗れた。また11/3・4、全日本学生柔道体重別団体優勝大会が行われたが、1勝6敗で順天堂大学に敗れ、初戦敗退となった。

砂原選手、海外遠征（研修）へ選抜

3/7～18に南フランス（パリ、ニース他）で実施される「2001年度全日本学生柔道連盟海外研修（遠征）」に砂原芳徹選手が全国20名の選手の一員として選抜され、全日本学生柔道連盟より派遣の要請があった。この海外研修（遠征）は、柔道の合同練習や海外試合を通して経験を深めると共に、見聞を広め、国際性を身に付ける目的で毎年春に実施されている。

お知らせのページ

ゴルフ大会参加者募集

案内状希望の方は事務局へ

恒例の親睦ゴルフ大会が本年も9月10日前後に開催予定。日時・場所など詳細は、6月初旬に決定します。参加案内状希望の方は、校友会事務局へご連絡ください。決まり次第、送付させていただきます。

平成14年度

校友会総会パーティのご案内

月日 平成14年11月10日（日）

場所 南海サウスタワーホテル大阪
（大阪難波、南海電車なんば駅上）

会費 正会員　5,000円
ご家族　2,000円（中学生以上）

●平成14年3月卒業生は無料

●福引きの豪華景品を用意しておりますので、たくさんの校友のご参加をお待ち申し上げております。

お悔やみ

●石川相談役ご逝去

校友会第2代会長・相談役の石川信男氏（S33交短運）が平成13年11月25日逝去されました。享年73歳。故石川相談役は昭和44年校友会設立にご尽力され、昭和45年設立と同時に副会長に、昭和52年1月から昭和58年3月まで会長として校友会の礎を築いていただいた功労者です。

水谷純一氏（S59土木）平成12年5月ご逝去
村上明雄氏（S49交機）平成12年7月ご逝去
秋田　清氏（S45短自）平成13年9月1日ご逝去
能森武士氏（H4短自）　平成13年10月11日ご逝去
丹波隆士氏（S62土木）平成13年11月16日ご逝去
松田栄吉氏（S43交機）平成13年11月24日ご逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

■お詫びと訂正
※前号（61号）で成田勲氏（H7短自）とお知らせしましたが、成田智治氏の間違いでした。訂正しお詫びいたします。

＝受験適齢期の子女をお持ちの校友会員のみなさまへ＝

子女には受験・入学の優遇制度があります。大いに活用をおすすめします。

平成15年度（平成14年11月～平成15年3月）入試の詳しい内容が決まるのは5月の予定です。お知りになりたい方は、事務局へご連絡ください。決定次第お知らせします。

（参考）平成14年度の内容は以下の通りです。

1.受験料免除
校友会長が発行した書面を願書に添付する。
但し発行は年度に一枚限り。

2.卒業生子女特別入学試験

(1) 募集定員
人間環境学部／文化環境学科　2名
都市環境学科　2名
経営学部／経営学科　5名
流通学科　5名
経済学部／経済学科　3名
国際経済学科　3名

(2) 出願資格
次の各項に該当する者
(1) 本校への入学を特に希望する者
(2) 本学の卒業生の子女（子女とは、子または兄弟姉妹）
(3) 高等学校を平成14年3月卒業見込の者
(4) 高等学校調査書の全体の評定平均値が「3.2」以上の者
(5) 本学専願者に限る

(3) 試験日・選出方法
【試験日】平成13年11月10日（土）
【選考方法】小論文と面接

※上記の「卒業生子女特別入試」で入学された方には校友会からの特典として、入学祝金10万円を贈る。

◆お問い合わせは校友会事務局まで（担当:福田）
フリーダイヤル 0120-84-3040
FAX 072-875-0398

会員データ（平成14年1月20日現在）

●卒業生数…… 56,577名
●重複卒業生数…… 861名
●会員数…… 55,716名
●物故者…… 375名
●住所不明者及び不明者扱い… 7,508名
●連絡可能会員数…… 47,833名

編集後記

池田義隆様、6年間の校友会会長という大役、本当にご苦労さまでした。学園創立70周年記念募金、校友会設立30周年記念事業、卒業生子女入学制度、学園合同同窓会など……。今思い起こしても「本当に良くやったな!」と感心します。校友会会報「凡友」の充実も池田会長の方針でした。

今後も編集部員一同、次期会長の光岡明弘氏とともにがんばってまいります。

（編集部長　高見新一）

校友会支部一覧（設立順）平成14年2月末現在

支部名	支部長	（卒年・学部）	事務局・電話番号
1 岡山県支部	芦田　正之	S40交短機 S43経営	〒708-0824　津山市河辺1155−31 (株)コスモツーリスト内（0868−26−5423）
2 香川県支部	長田　恒久	S43短自 S46機械	〒769-1407　香川県三豊郡仁尾町丁372−2 前川宗正（0875−82−2207）
3 大学支部	笹本　由文	S47交機II	〒574-8530　大東市中垣内3−1−1 大阪産業大学内（072−875−3001）
4 愛媛県支部	能智　正雄	S46経営	〒799-1101　愛媛県周桑郡小松町大字新屋敷甲3084-9（0898−72−2194 ）
5 吹田支部	伊藤　孝義	S27交短運	〒564-0083　吹田市朝日が丘町12−22 （06−6388−7100）
6 大分県支部	小畑　京治	S51経営	〒870-0000　大分市大字浜266−1 姫野一彦（097−593−1606）
7 兵庫県西支部	大久保　司	S46経営	〒670-0061　姫路市西今宿2−4−6 (株)ビジネスサービス内（0792−98−1000）
8 大阪日産モータース支部	唐津　登	S40交短自	〒552-0013　大阪市港区福崎2−2 大阪日産モーター(株)サービスセンター内（06−6571−1123）
9 高知県支部	大久保隆教	S43短自	〒780-0004　南国市大埇甲2270 （0888−64−2548）
10 大阪北河内支部	津曲　逸雄	S49交機II	〒571-0006　門真市上馬伏21-5-1 津之宮自動車整備（072−882−8022）
11 奈良県支部	森田富士男	S45経営	〒630-8268　奈良市大豆山町10 （0742−24−5903）
12 和歌山県支部	山西　義彦	S43経営	〒642-0024　海南市阪井992 （073−487−3356）
13 大阪中・南河内支部	吉内　秀徳	S43経営	〒579-8035　東大阪市鳥居町5−7 吉内保険事務所（0729−84−7272）
14 長崎県支部	平尾　武次	S47交機	〒851-0133　長崎市矢上町724-1 (有)平尾ダンボール内（095−838−2063）
15 三重県支部	渡邊　優	S46経営	〒510-0854　四日市市塩浜本町1−53 水野直樹（0593−46−2529）
16 関東支部	井上　静也	S43交機II	〒224-0008　横浜市都築区荏田南1−20−4−1102 （045−941−5202）
17 新潟県支部	広田　潔	S41交短自	〒949-7101　新潟県南魚沼郡六日町五日町14 （0257−76−2051）
18 福井県支部	早瀬　俊雄	S44経営	〒914-0314　敦賀市杉箸84−14 （0770−27−1610）
19 鳥取県支部	下山　博司	S47経営	〒680-0146　鳥取県岩美郡国府町大字町屋265 （0857−22−1525）
20 広島県支部	重見　定	S47経営	〒739-1201　広島県高田郡向原町坂6711−3 （0826−46−7011）
21 大阪市支部	美内　照男	S44機械	〒557-0054　大阪市西成区千本中1−19−6 高見新一（06−6652−5675）
22 鹿児島県支部	赤崎　一弘	S43交機II	〒890-0055　鹿児島市上荒田町849 有馬順一郎（099−255−6711）
23 北海道支部	浜田　修平	S38交短自	〒042-0914　函館市上湯川20−10 （0138−57−9126）
24 大阪日産自動車支部	鮫島好徳(代行)	S42短自	〒551-0021　大阪市大正区南恩加島6−3−10 （06−6551−2865）
25 福岡県支部	藤　洋一	S45経営	〒811-1211　福岡県筑紫郡那珂川町今光5−46 （092−952−1437）
26 神戸市支部	森本　勉	S48経営	〒655-0872　神戸市垂水区塩屋町1−4−8 （078−752−2301）
27 宮崎県支部	長友壮一郎	S56交機	〒880-2112　宮崎市大字小松1941-57 （0985−48−2799）
28 徳島県支部	筒井　健一	S48短自	〒772-0053　鳴門市鳴門町土佐泊浦字高砂186−16 芝野光（088−687−0136）
29 埼玉県支部	鈴木　菊男	S39交短経	〒350-1317　狭山市水野384−15 高橋正秋(042−958−2854)
30 兵庫県但馬支部	岸本　隆男	S43交機	〒667-0012　兵庫県養父郡八鹿町伊佐17−2 田村静夫（0796−62−6855）
31 京都府支部	石丸　博史	S46経営	〒607-8471　京都市山科区北花山大峰町1−10 柴橋信行（075−581−9744）
32 大阪泉州支部	加藤　豊	S43経営	〒591-8002　堺市北花田町4丁目94−30 (有)グランコーヒー内（0722−50−3105）
33 台湾校友会	張　明鋆	S61経営	台北市松江路108−23 （02−2565−1712）
34 韓国総同門会	玄　雄鍾	S62経営	BUMIL, 5FL, 126-2, NONHYUN-DONG, KANGNAM-KU, SEOUL, KOREA　李 廣勲（02−548−5110）
35 滋賀県支部	田中　善昭	S45経営	〒528-0067　滋賀県甲賀郡水口町山3919−133 柴原延行（0748−62−8561）

会員総数 55,716 名
（平成14年1月20日現在）

凡友（ぼんゆう） 第62号 大阪産業大学校友会 会報

発行日　平成14年3月15日
発　行　大阪産業大学校友会　〒574-8530 大東市中垣内 3-1-1
ﾌﾘｰﾀﾞｲﾔﾙ　0120-84-3040
ＴＥＬ　072-875-3040（直通）072-875-3001（内線7730）
ＦＡＸ　072-875-0398
e-mail　koyukai@www.osaka-sandai.ac.jp
http://www.osaka-sandai.ac.jp/koyukai/
印　刷(株)廣済堂